

次に、大学院の設置区分別に不安を感じる割合をみると、私立大学で「どちらともいえない」とする割合がやや多く、また「あまり感じない」とする割合がやや少なくなっている。

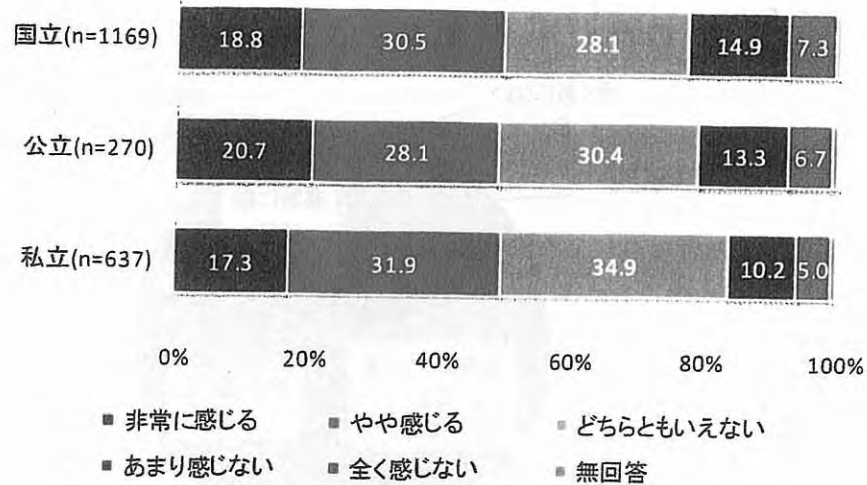


図 I - 13 大学院の設置区分別学位（博士号）取得に対する不安(%)

一方、大学院の所在地別に不安を感じる割合をみると、東京で「どちらともいえない」とする割合がやや多いのを除けば、大きな傾向の違いはみられない。

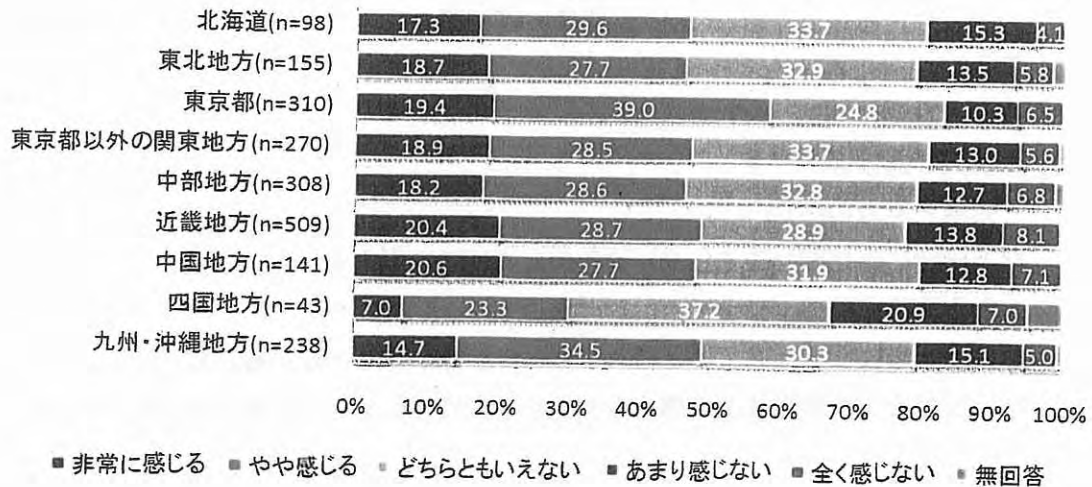


図 I - 14 大学院の所在地別学位（博士号）取得に対する不安(%)

4 博士課程（後期）で経験したこと

博士課程（後期）における研究教育上の取り組みとして、どのようなことを経験したかを尋ねたところ、「コースワーク（講演、実習）」は73%、「国際会議への参加支援」は35%、「複数の専門分野に関わる教育研究」は32%、「企業等との共同研究」は17%となっているが、「海外の大学への留学」、「企業等のニーズを踏まえた科目の履修」、「企業等へのインターンシップ」、「キャリア教育」については6%以下と取り組みが進んでいない。

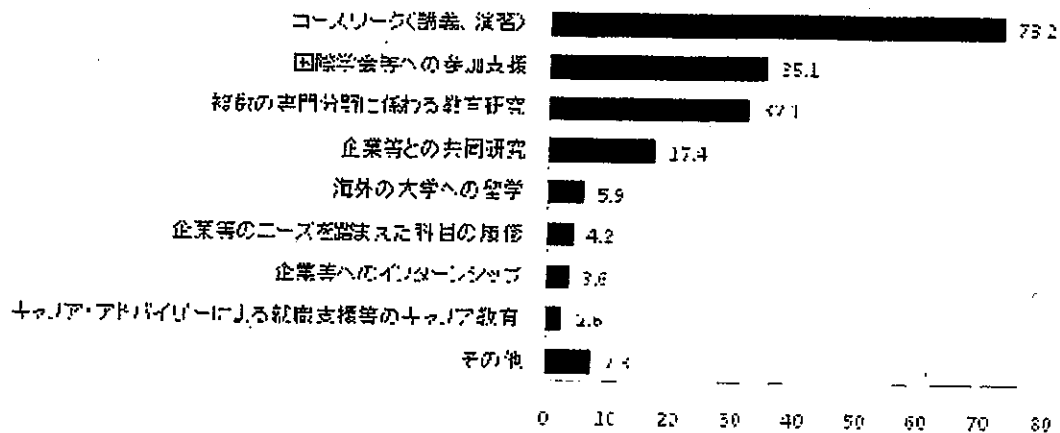


図 I - 15 博士課程（後期）で経験した教育研究上の取り組み(n=2076,%)

このほか、7%程度みられる「その他」に具体的に記された内容は

- ・外部との交流・共同研究（他大学、企業、海外機関など）
- ・TA や RA
- ・プロジェクト研究
- ・研究会やワークショップへの参加
- ・アウトリーチ活動

などを代表にさまざまに多岐にわたるが、一方で、調査票の選択肢のいずれについても経験していないという回答もわずかにみられた。

次に、大学院の設置区分別に経験した教育研究上の取り組みをみると、全体からみると経験した割合はそれほど多くはないものの、国立大学において「企業等へのインターンシップ」や「キャリア・アドバイザーによる就職支援等のキャリア教育」の経験割合が他の区分と比べてやや大きい。

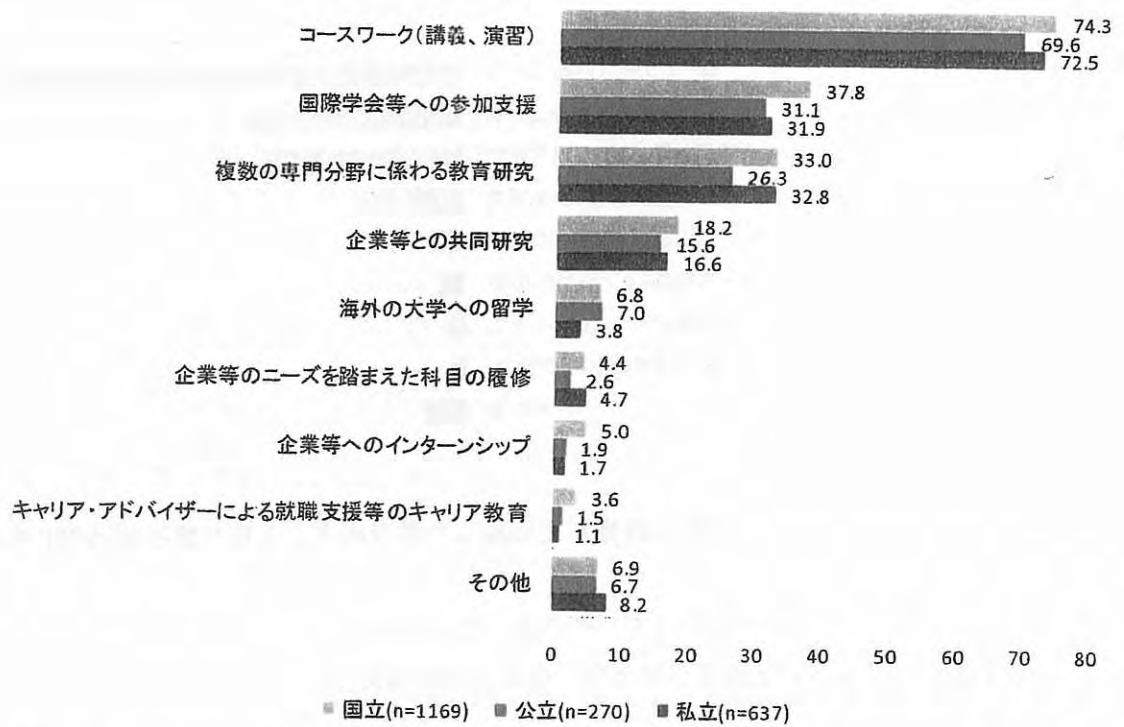


図 I - 16 大学院の設置区分別博士課程（後期）で経験した教育研究上の取り組み(%)

大学院の所在地別に経験した教育研究上の取り組みをみると、上位にある取り組みについてはほとんど同様の傾向である。下位に位置する取り組みについては、東京都における「海外大学への留学」、九州・沖縄地方における「企業等のニーズを踏まえた科目の履修」、四国地方における「企業等へのインターンシップ」、のそれぞれで他の地域に比べてやや経験した割合が高くなっている。

表 I - 8 大学院の所在地別博士課程（後期）で経験した教育研究上の取り組み(%)

	コースワーク (講義、演習)	国際学会等への参加支援	複数の専門分野に係わる教育 研究	企業等との共同研究	海外の大学への留学	企業等のニーズを踏まえた科 目の履修	企業等へのインターンシップ	就職支援等のキャリア教育	キャリア・アドバイザーによる その他
北海道(n=98)	77.6	27.6	23.5	15.3	3.1	3.1	2.0	5.1	6.1
東北地方(n=155)	74.2	36.1	42.6	16.8	1.9	5.8	3.2	1.9	4.5
東京都(n=310)	77.4	34.2	30.0	15.5	9.0	4.5	4.2	3.9	8.7
東京都以外の関東地方 (n=270)	73.0	35.2	32.2	16.3	5.6	4.1	3.3	3.3	6.3
中部地方(n=308)	70.5	35.7	30.5	19.8	4.5	3.9	2.6	1.6	9.1
近畿地方(n=509)	71.1	36.1	29.7	16.9	7.3	2.8	3.5	1.6	8.1
中国地方(n=141)	71.6	29.1	36.9	17.7	3.5	4.3	1.4	2.1	7.1
四国地方(n=43)	58.1	41.9	34.9	37.2	7.0	2.3	9.3	2.3	7.0
九州・沖縄地方(n=238)	77.3	38.2	35.3	16.8	5.9	7.1	5.5	2.5	5.0

所属している大学院の専攻分野別にみると、工学系で「海外の大学への留学」という回答割合が他の分野よりも高くなっている。

5 博士課程（後期）で身につけたい知識・技能・態度

博士課程（後期）での教育研究を通じて身につけたい知識・技能・態度について、最も希望が多かったのは「専門分野の理論的知識」で81%となっている。次に、「専門分野の方法論や分析方法」、「専門分野の研究能力」、「専門分野の先端的な知識」が続いており、いずれも専門分野のレベルアップに関する項目である。また、それに続く項目としては、「プレゼンテーション能力」、「専門的知識・技術を様々な問題に活用できる専門応用能力」、「学際的な知識や方法論」、「複数の専門分野を融合できる知識や方法論」などがあがっていて、いずれも60%台の反応がある。これらは、専門的知識を応用・融合した能力の向上に関する項目とみることができる。

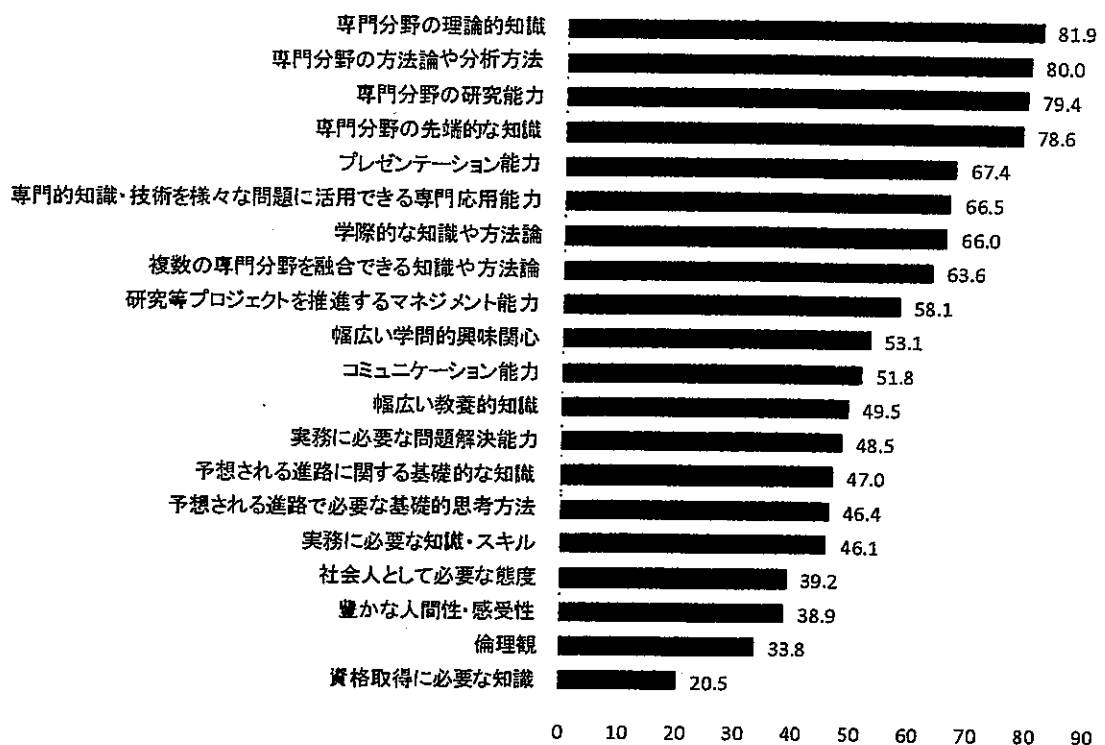


図 I - 17 博士課程（後期）で身に付けたい知識・技能・態度(n=2076,%)